



# 第34回 源氏配役表



No.	衣装	配役	ふりがな		備考	参加費	募集数	応募条件
1	兜武者	源義経	みなもとよしつね	水軍大将 (27歳)	源氏の総大将であり母違いの兄である頼朝の臣下として、平家を滅亡に追いやった源氏の一大英傑。義仲討伐、一ノ谷、屋島、壇ノ浦と連戦連勝、多大な軍功を収める。その後、兄に追われ、三年半に及ぶ逃亡の末、衣川で自害した。	30,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
2	兜武者	源範頼	みなもとのりより	陸軍大将	追討戦や摂津一の谷の対平氏戦に、異母弟義経と共に頼朝代官・一方の大將軍として出陣、勝利を収める。壇ノ浦では九州に渡り平氏軍の背後の遮断に成功し彦島に孤立させ、平家一門滅亡に導く。	30,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
3	静御前	静御前	しずかごぜん	白拍子義経の愛妾	義経を愛し、また義経が愛した女性。その舞は後白河院より「日本一」の宣旨を受けたとも言われ義経もこれに魅了された。都落ちの際、大和国吉野で捕らわれ鎌倉へ護送され、その後、頼朝の御前で義経を慕う気持ちを歌に込め舞を舞う。	30,000	1名	女性(身長140cm以上)
4	弁慶	武蔵坊弁慶	むさしほうべんけい	熊野別当増の子 と言われている	五条大橋から衣川の自害まで常に義経に従い忠実な家来として活躍した。千本狩りや立ち往生、内弁慶の慣用語など、その人物像を伝える言葉は今も多く残る。 幼名 鬼若丸	15,000	1名	男性(身長160cm以上)
5	兜武者	駿河次郎	するがじろう	一説では義経四天王 と呼ばれる	もとは船乗り。奥州行きの道程を海路に取らざるを得なくなった義経一行。伊勢が船を借りたいとやって来たのが次郎との出会いだった。奥州までの船旅の中で義経という男に魅力を感じ始め、平泉到着後も帰らずに一向と行動を共にすることになる。	25,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
6	兜武者	伊勢義盛	いせよしもり	義経の手郎党	義経に一命を助けられたことを機に、家来として仕えようと決意する。口八丁の彼の弁舌と交渉術がたびたび一行の窮地を救う。壇ノ浦で平家の重臣を裏切らせ義経を勝利に導いたのも義盛の功労によるものである。	25,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
7	兜武者	那須余市	なすのよいち	義経の家来 (17歳)	飛ぶ鳥の三羽に二羽は射落とすと評判の高い弓の名手であった。屋島の合戦において平氏の小船に掲げられた扇の的を見事射抜き両軍より大喝采を浴びる。この活躍により那須氏の家督と多くの領地を得た。	25,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
8	兜武者	土肥実平	どひさねひら	侍大将 一群を率いる将	石橋山の敗戦の際には機転をきかせて頼朝の危機を救い、安房国への脱出に成功。その後、源義仲討滅戦や平家追討戦では侍大将を務めるとともに、1184年には備前、備中、備後3カ国の惣追捕使に任ぜられて占領地の軍政にも当たるなど、頼朝からその軍事的能力を高く買われている。	25,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
9	烏帽子	梶原景時	かじわらかげとき		石橋山の戦いの際平氏に属しながら源頼朝の窮地を救い源氏に戻る。屋島攻撃の際に義経と作戦上の問題で対立。頼朝への梶原の「讒言」が義経失脚の一因を作ったといわれる。	15,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
10	烏帽子	和田義盛	わだよしもり	源範頼の将	源範頼麾下、源義仲や平家を追討するため西国を転戦し功績を挙げるが、長期にわたる遠征で軍兵の士気は低下し頼朝の譴責を受ける。	15,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
11	烏帽子	河野通信	こうのみちのぶ	伊予国 河野水軍の将	源頼朝らが反平家勢力を挙兵した治承・寿永内乱の際はいちはやく源氏方に立ち、その功績によって源頼朝に直接臣従を許され、所領を安堵された。	15,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
12	烏帽子	熊谷直実	くまがいなおさね		石橋山の戦では、平家方として攻めたが、のちに頼朝の配下となり、早々に抜群の戦功をあげ、本領の熊谷郷の地頭職に補任された。その後、一の谷の戦で16歳の平敦盛を討ったことは有名で、これがのちに出家する機縁になったという。	15,000	1名	男女問わず(身長140cm以上)
13	烏帽子	烏帽子	えぼし			5,000	10名	男女問わず(身長140cm以上)
14	女官	市女笠	いちめがさ			5,000	5名	女性(身長140cm以上)
15	女官	被衣	かつぎ			5,000	2名	女性(身長140cm以上)
16	従者	従者	じゅうしゃ			無料	19名	男女問わず(身長140cm以上)